

## 人気者のイボイノシシ

アニマルフォトグラファー  
トラベルライター

平 岩 雅 代

“猪突猛進”という言葉がありますが、東アフリカのケニアやタンザニアの草原で会うイボイノシシに限っては、「向こう見ずに猛然と突き進む」ということはありません。

外見は立派な牙に両頬の突起(イボイノシシの名前の由来は、この突起から来ている)、そして豊かなたてがみから、気性の荒い動物だと思われていますが、実はたいへん臆病で、優しい気だての動物です。

イボイノシシは常に周囲の様子に変化がないか?と注意深く気を配っています。

首が他の動物と比べて極端に短いため、イボイノシシはしばしば前肢を折り曲げ、まるで掃除機の吸い取り口のような口で、地面近くの草を食べます。

危険を感じた時は、細くて長い尻尾をピンと空に向けて高く伸ばし、一目散に逃げ出します。その姿は、まるでアンテナを伸ばしてフルスピードで走る現地の乗り合いバスのように・・・。

大草原で何かに驚いて走るイボイノシシを見かけますと、案内してくれる旅行会社のガイドやドライバーは、「(ケニア)エクスプレス」(ケニアの)特急バスが走っているよ”と笑います。

特徴のあるイボイノシシの顔を近くでじっくり見てみたい、と思う人は少なくないのですが、何しろ相手は名にし負う臆病者。クルリと向きを変えたかと思えば、とんとん遠ざかってしまい、一同ガッカリです。

ところが、そのイボイノシシをゆっくりとすぐ近くで見たり、一緒に記念撮影をしたりできる場所を発見しました。

ケニアの代表的な動物保護区のひとつ、マサイマラ国立保護区内に建つ名門ロッジ、キーコロックロッジがその場所です。

広々とした敷地にバンガロー形式の客室が立ち並び、色とりどりのブーゲンビリアの花が咲き乱れる美しい庭を、立派なイボイノシシが自由に歩き回っているではありませんか。

さらに驚いたことには、近寄って写真を撮ったり、イボイノシシに触れても大丈夫だということです。

同行した日本人観光客の皆さんは、早速イボイノシシの尻尾を持ち上げてご覧のように記念撮影を楽しんでいました。(写真2)

実はこのイボイノシシ、生まれて間もない時に母親をライオンに殺され、草原にいたところを小型機の定期便パイロットに拾

われ、キーコロックロッジの“里子”になった、というわけです。

やって来た当時はかわいらしい赤ちゃんだったのが、2年近くたった今では体重50kgほどに成長し、“ポーク・チョップ”嬢という名前のように丸々と太って栄養状態もすこぶる良好。

世界中から訪れるキーコロックロッジの宿泊者に愛嬌をふりまいています。

ロッジで働くスタッフにもすっかりなつき、大人しく庭の“芝刈り”ならぬ草むしりをしています。



写真2 人間に馴れているのにびっくり

さすがに庭に面したダイニングホールの中だけは入室禁止になっていますが、その他はロビー、ラウンジ、客室の前など、自由気ままに散歩をする特権が与えられています。

茶目っ気もなかなかで、ある時は明け方の4時過ぎに客室のドアをノックし「さて、頼んでおいたモーニングコール(目覚まし)にしては、ちょっと早いようだが…」と言牙

しがるお客さんを起こしてしまうこともあったそうです。

すっかりアイドルとなったイボイノシシですが、一度だけ謹慎というお仕置きを受けたことがあります。ロッジに到着したばかりの男性に小走りに近寄り、事情を知らない男性がびっくりして転び、怪我をさせてしまった時、罰として3ヶ月間一步も囲いの中から出してもらえなかった、というものです。

それにしてもこんなに間近かでイボイノシシとふれ合うことができるなんて、夢のようですね。

#### 〈イノシシひとくちメモ〉

東アフリカにはイボイノシシ(英語名ワートホッグ)を始め、カワイノシシ(同ブッシュビッグ)、モリイノシシ(同ジャイアントフォレストホッグ)の3種類のイノシシがいます。最も出会う確率が高いのは、見通しの良い草原で暮らすイボイノシシです。ディズニー映画とミュージカル『ライオンキング』の中で主要な役を担うところから、イボイノシシは一躍人気者になりました。